

- 山梨県では、花き産地の生産振興を図るため県育成オリジナル品種「ふじさんアジサイあかね」「ふじさんアジサイほくと」を27年に育成。
- 品種の普及と産地への定着をめざし、栽培マニュアルを作成し、生産者全体の技術向上を図った。また、農家主体の団体「ふじさんアジサイ研究会」を設立と活動について支援。
- 令和3年の実績として切り花23,000本、鉢花11,000鉢を販売、経営改善につなげた。

具体的な成果も

1 農家との共同研究、栽培マニュアル作成

- 研究会活動の支援を通じ、農家と共同で栽培マニュアルを作成し関係者で共有。マニュアルは、生産者向けの切り花用と鉢花用に加え、地域活動のための飾花用の3種類を作成。



ふじさんアジサイあかね



ふじさんアジサイほくと

2 個別農家への支援、オリジナル品種の初出荷

- 研究会活動への支援とともに、個々の農家の課題にもきめ細やかに対応することで、苗の導入4年目に初出荷を迎えた。(研究会メンバー15名)

■ 切り花初出荷(R2.9)

オリジナル品種「あかね」(切り花)を市場出荷。



現地検討会の様子

■ 鉢花初出荷(R3.6)

オリジナル品種「ほくと」(鉢花)を市場出荷。

3 栽培者確保と出荷実績の拡大(R3実績)

■ 切り花 8人、出荷実績 23,000本

■ 鉢花 7人 出荷実績 11,000鉢



切り花  
(あかね)



鉢花  
(ほくと)

普及指導員の活動

平成28年

- オリジナル品種の導入、検討を行うため、農家15名で「ふじさんアジサイ研究会」を設立、普及センターで活動を支援。
- 年2～3回のペースで研究会を継続。

平成29～令和元年

- 栽培のノウハウが無い中で、研究会を通じ農家と共同研究。仕立てや剪定、病害虫防除等の、基本となる栽培技術を確立。(栽培マニュアル作成)
- さらに、圃場の立地や個々の経営上の位置づけに合わせ、状況や技術レベルに合わせた農家支援を行った。

令和2～3年

- 初出荷を迎える中で、各種メディアを通じ、積極的に情報発信を行い。広くオリジナル品種のPRに努めた。

普及指導員だからできたこと

・ マニュアル作成や研究機関の成果情報等に基づく現地実証などにより県オリジナル品種の円滑な普及が進められた。

・ オリジナル品種の特性に合わせた農家選定や、立地に合わせた栽培技術の指導など、普及ならではの、地域に密着した効率的な産地育成が図られた。

活動主体	総合農業技術センター 農業革新支援スタッフ	執筆者	高橋一春
タイトル	ピラミッドアジサイ県育成品種導入による花き産地強化に向けた取り組み		

## 1 活動の背景

山梨県花き園芸組合連合会「ふじさんアジサイ研究会」は、平成25年に組織され、ピラミッドアジサイの栽培や出荷技術の確立に向けて積極的に取り組んでいます。

また、富士北麓地域花き生産協議会においても、飾花用苗や鉢物の生産を希望する会員が出てきており、県下全域の取り組みとして生産拡大が見込まれています。

このような中で、切り花として出荷される県オリジナル品種の「山梨24-1（販売名：ふじさんアジサイ‘あかね’以下「あかね」という。）」は、花穂が大きくなると倒伏しやすいことや開花時期による花色変化の不揃い等の課題があり、また、鉢花で出荷される「山梨22-1（販売名：ふじさんアジサイ‘ほくと’以下「ほくと」という。）」は、草丈の伸長を抑え、鉢とのバランスの良い商品が市場から求められています。

そこで、「あかね」における剪定技術や剪定時期による品質向上を確認するとともに、ほくとの初出荷に向けた草姿改善への取り組みや富士北麓地域への普及・定着を図り、花き産地の強化に向けて支援しました。

## 2 活動の経過

### (1) 「あかね」の剪定技術等の実証

設置場所：南アルプス市築山

試験区：剪定時期 ①4月16日、②4月27日、③5月7日

耕種概要：5年生株（H29定植）、株間50cm、畝間170cm

剪定方法：主幹は50cm、主枝は10cm程度残して剪定

### (2) 「ほくと」初出荷に向けた草姿改善の支援

ほくとは、品種の特性により植物成長調整剤による草丈の抑制効果が低いことから、耕種的に草姿改善を実施し、初出荷に向けて支援しました。

### (3) 富士北麓地域への鉢花栽培の普及・定着

ピラミッドアジサイ新品種の鉢花栽培への普及・定着を図るため、富士北麓地域花き生産協議会の鉢花生産を希望する会員を対象に、ほくとを初出荷した先進農家の視察研修を実施しました。

## 3 活動の成果

### (1) 「あかね」の剪定技術等の実証結果

#### ○ 開花期・着色期

- ・4月16日剪定では、開花が7月で、赤く着色するまでに40日以上かかることから、採花後の萎れが懸念されます。



写真1 実証ほの設置

- ・4月27日以降の剪定では、開花から着色するまで長くても30日程度であるため、開花後の萎れリスクは低くなります。

○ 収量・品質

- ・5月7日の剪定では、開花が間に合わない枝が多くなり、花茎本数は4月末までに剪定した株と比べ1/2程度となりました。
- ・4月下旬の剪定が花茎本数も多く、花穂もコンパクトになっていることから、着色期も考慮するとこの時期の剪定が一番良い結果となりました。

表 各剪定時期の収量・品質

試験区	花茎本数	総枝数	着花率	花穂長
	(本/株)	(本/株)	(%)	(cm)
4/16剪定	32.5	49.5	39.6	16.7
4/27剪定	32.7	73.0	30.9	13.1
5/7剪定	17.3	56.9	23.3	12.3

(2) 「はくと」の初出荷について

耕種的草姿改善については、出荷鉢を小さくして根域を制限することで、生育を抑制するとともに、施肥を最小限にする肥培管理やかん水を控えるなど制限することで草丈を50～60cmに抑えることができました。その結果、6月15日にはくとが初出荷されました。



写真2 初出荷の様子

(3) 先進農家の視察研修

- ・研修日時：12月17日
- ・研修場所：中央市関原  
石原園芸 石原玄太氏
- ・研修内容：「はくと」の鉢花栽培について
- ・視察人数：5名
- 視察者は植物成長調整剤を使用しない、コンパクトな鉢栽培のノウハウを研修し来年度の栽培に意欲を示していました。  
富士北麓地域への鉢花栽培の普及・定着が期待されます。



写真3 視察研修の様子

4 次年度への取り組み

本年度の実証結果を研修会等で生産者に周知し、更なる品質向上に向け剪定技術の普及・定着を図ります。また、鉢花の生産者を増やすとともに安定生産に向けた取り組みを行い、出荷量の増大に向け支援していきます。